

LINE活用し「お元気ですか？」 全世代向け見守りサービス



紺野さん

紺野功さんは、日本の人口の約6割が使用していると言われているSNS、LINEを活用して、単身者への見守りサービスを提供している。

このサービスを紺野さんが作ったきっかけは2015年、52歳の実弟の孤独死だった。「直接の死因は、家の中で亡くなったのに低体温ででした。もっと早く気づいていればなんとかできたんじゃないかと…」

17年に仕事を辞めた紺野さんはこの先の人生をどうするか考え、何か社会貢献したいと思っ

た。そこでもともとコンピュータのシステム開発の仕事をしていた紺野さんが思いついたのが見守りのアプリ開発だった。だが、ゼロからアプリを

エンリッチ代表・紺野 功さん

作るには一千万円はかかると知って断念。そこで思いついたのが、多くの人が利用しているLINEのプッシュ通知を活用した見守りだった。

18年にNPO法人エン

リッチを設立、その年の11月から2種類の見守りサービスを開始した。個人向けサービスは、「毎日」または「2日に1回」または「3日に1回」の任意の時間に、偉人の名言とともに「お元気ですか？」と安否確認が入る。

孤独死なくしたい

自治体の協力必須

登録者は画面上の「OK」をタップするだけでよい。タップがなければ、翌日再度確認が入る。再送後3時間以内に確認が取れない場合は、エンリッチから登録者に直接メールで連絡が入る。それでも連絡が取れない場合は、登録された近親者や友人に連絡される仕組みだ。

グループ向けのつながりサービスは、グループラインを使う。1日3日など、決めた間隔で任意の時間に、親族、友人などで作ったグループラインに安否確認が入る。

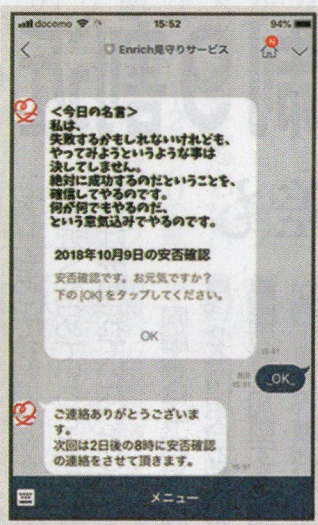
でない人の孤独死防止には対応されていない。連絡先が遠方の人だったらすぐに駆けつけることはできないから、行政にも見守りサービスに関わってほしいのです」

ます。高齢者だってスマホを使いこなせる時代になるのは間違いないから、便利なサービスです。国を挙げて共生社会を、と言っているなら、考えてみてほしい」。民間の警備会社と提携して、高齢者の見守りをする自治体もあるが、その費用負担に比べれば、LINEを使ったこのサービスは安いと、財政面でのメリットも挙げる。

現在、2つのサービスは無料で提供されている。将来的にグループサービスは、1グループあたり3千円の利用料とし、それを資金として、緊急性の高い個人向けサービスは無料提供を続けていきたいと考えている。

紺野さんは見守りサービスのこれからについて話す。「LINEのサービスで完結とは考えていません。登録者が増え、助成金がついたりしたら、もっと中身の濃い見守りができる専用アプリを開発できます」

「単身世帯は今後も増え続けます。孤独死は他人事ではないと知ってほしい」という紺野さんの思いをつなげていくためにも、協力してくれる自治体や団体が必要である。問い合わせ info@enrich.tokyo



個人向け見守りサービス。同送される今日の名言を楽しみにしている人もいる